2003.12.15

国総研　長尾

荷重指針連合小委員会原案に対する意見

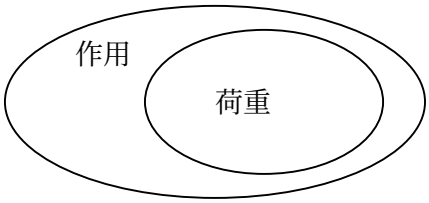
①作用と荷重の分類について

「作用，荷重」という表現が出てくるが，これを整理できないか.

これは,

1：作用→荷重（モデル）（実際の設計手順，作用があって，これを荷重モデルに置換える）

2：荷重は作用の一部



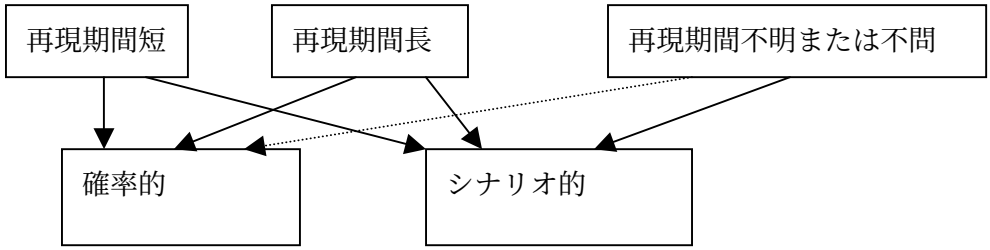
のいずれの考えに立つかで違ってくるのではないか.

例えば環境作用は環境荷重という荷重モデルには変換できないし，時刻歴の地震応答解析を行う際の時刻歴地震波形は，作用のみで設計が行えるので，モデル化は不要．本指針は荷重モデルには重きを置かないのであるから,「作用」で統一した方が適切ではないか.

②変動荷重・偶発荷重の分類について

現在の議論では,「再現期間の長短」と「確率的かシナリオ的か」といった複数の視点から議論しているのでまとめにくくなっているのではないか．分類軸を複数にすると，どちらの視点を重視するかで同じ作用でも分類が変わってしまう場合が生じると考えられる.

永続・変動・偶発は，言葉の定義およびその分類意義が作用の組み合わせにあるのであれば，再現期間的な観点から分類するのが妥当ではないか．例えば，再現期間数十年程度の作用は変動作用，再現期間 100 年以上または確率的に再現期間を表現できないものを偶発作用と分類．ポアソン過程なら設計供用期間 50 年に一度くらい来る（例えば遭遇確率約 50%）なら 75 年再現，供用期間 100 年なら 150 年くらい.



組み合わせの可能性